

12月の生活表

2021年12月

聖マリア幼稚園

年主題：共に喜んで～すべての歩みの中で～

月主題：喜びいっぱい

・保育日数（14日 / 20日）

月目標：（3歳）

- ・聖書に描かれているイエスさまのお誕生日のお話を聴き、クリスマスをうれしく待ちながら、共に喜び合う。
- ・友だちと一緒に賛美したり踊ったりすることに喜びを感じる。
- ・寒さの中でも、戸外での遊びを楽しむ。

（4・5歳）

- ・神様がこの世にイエス様を与えてくださったクリスマスの意味を知り、感謝と喜びをもって受け止め、礼拝する。また、喜びを伝え合い、祝い合う、分かち合いの経験をする。
- ・一人ひとりに与えられている恵み（賜物）を用いて友だちと協力したり、役割を分担しながら遊び、生活していく中にある喜びを感じる。
- ・困っている、悲しんでいる人に心を向け、祈りながら自分たちにできることを考えていく。

いよいよ一年の最終の月を迎えます。先生たちもコロナ禍であってもどつしりと進んできた最後の月を元気に走り抜け2022年の新しい寅年を力強く前進し子どもたちに愛を注ぎたいと思います

さて、今年度の年主題は「共に喜んで～全ての歩みの中で～」とあり、12月の月主題は「喜びいっぱい」とあります。この一年神様に守り導かれて過ごした日々ですが、歩みを通して、ご家庭であるいは個人でどのような喜びを感じられたでしょう。その喜びを分かち合い、喜べない？と思う人に添って少しでもその人と心を共にし合えたでしょうか。とても難しいと思います。自分だけが喜びたい、喜びがいっぱいになればいい。そうではありませんね。クリスマスは、「世界の救い主がお生まれになる」という不安な世界の中で実現した神様の大切なおひとり児のお誕生を示すものですから、世界中が沸き立ち祝杯をあげたとしてもそれはそれはとても嬉しいことなのには違いありません。そして、「その日がクリスマスです」というページェントの中にある大切な説明文の一説によりその日の出来事を知ります。だから大喜びしてワクワクして羊飼いや博士も馬小屋にかけ詰めたのです。でも、今、実際に神様の創られたこの地球は両手をあげて喜び合えるのかと言いますとそうではなさそうですね。この様な負の多い時だからこそ「祈る」ことが求められるのではないかと思います。それも自分のことのみではなく誰かのために。自分以外の物や人の存在を認識することは、社会で共存するのにこんなに大切なことはありません。コロナの禍いは命に関わる重要なことと同時に、今までの「当たり前」を取り去り、繋がりを疎遠にし、身も心も蝕まれていく様です。でも私たちには「祈り」があります。このクリスマスに、皆様の「祈り」を合わせてこの1年を感謝と来る新年に希望が叶えられるように「お祈り」致しましょう。

2学期の行事を無事に終えたら、もう入学・進級が目の前です。今、文科省で「幼保小の架け橋プログラム」が議論されています。それにより質の高い学びへと導くというものだそうです。子ども達の成長、高い学びに隠されたもの、それは私たち教員の資質の向上です。どんな質を高めるのか。その基本は一人ひとりをしっかり把握できる先生の五感を養わねばならないと考えています。そして、その礎は、心の養いが大切と思っています。見えないものを通して、見えないものを把握する。こんな難しいことはないかもしれません。でも、キリスト教の幼稚園においては「見えないもの」が特に大切なのではないかと考えています。子どもの将来は見えませんが、喜びいっぱいを感じられるような心育を、まずはしてあげたいということなのです。Merry Christmas !!

《チャプレンコーナー》12月 月主題：喜びいっぱい

月聖句：おめでとう、恵まれた方。（ルカによる福音書 1：28）

街中では既にクリスマスの準備が始まっています。教会の暦では、クリスマスの約1か月前から、今年は11月28日から、クリスマスの準備期間である降臨節：アドベントが始まります。幼稚園でも本格的にクリスマスの準備に入ります。天使はマリアさんに「おめでとう、恵まれた方」と告げました。数々のキリスト教絵画や彫刻を見ると、マリアさんはとても美しく、神々しく表現されています。しかし聖書には、彼女の外見については何も記されていません。また、生まれ育った環境や、能力、性格についても、何も記されていません。ということは、マリアさんは「特に特記すべき所のない」、ユダヤの田舎のごく普通の少女だったということが分かります。

クリスマスの素晴らしさは、ごく普通の人々の中に、神様の救いの御業が始められた所にあります。ごく普通の人々が、しっかりと神様のメッセージを受け止め、様々な困難に直面しながらも、懸命に道を切り開き、希望を大きくしてゆくことが、素晴らしいのです。

マリアさんが「おめでとう」の声を聞いた時、彼女は不安を覚えました。その不安は、的中しました。その後の彼女の人生は、思いもしなかった苦難の連続でした。けれどもマリアさんは、祈りを通して、苦難の中に、神様の救いの光を見出したのです。

私たちの人生は決して楽ではなく、また世界には不安な要素が多くあります。けれども神様が救いの御業を行っておられるのも、この世界です。

私たちも、祈りの心で、この世界の中に希望の光を見出してゆきたいと思えます。

おたんじょうび おめでとうございます

25日：イエスさま

＜生活指導＞

☆自然の移り変わりに目を留めてみましょう。

- ・ 風の冷たさ、音、樹々の変化、山の色の変化、登降園途中の様々な発見を大切にし、冬の訪れを感じてみましょう。

☆自分で出来る事は自分でやってみましょう。

- ・ 上着を着る機会が多くなります。ジャンパーのボタンやファスナーが自分で出来るように練習してみましょう。出来ない時にはお手伝いをしてあげましょう。『○○して下さい。』とのお願いのことばを添えて。
- ・ 自分の持ち物は自分で整理整頓しましょう。脱いだあとの服の始末（たたむ・フックに掛ける・ハンガーにかける等）、鞆を一定の場所へ・・・幼稚園へは上着を着たまま保育室に上がらせて下さい。たたむ練習をしています。

☆健康管理に留意しましょう。

- ・ コロナは勿論、インフルエンザにも備えて、帰宅後の手洗い（指の間・手の平と甲・手首）をしっかりとしましょう。
- ・ 暖房器具が活躍する季節になりました。換気と乾燥に気をつけましょう。

☆家の中で、お手伝いをさせましょう。

- ・ 年末には、子ども達も家族の一員として子どもが出来る範囲のお手伝いをして、責任が果たせるように話し合っただけを考えてみましょう。（雑巾がけ＝絞る、たたむ、掃く＝クリーナーor箒と塵取りの使い方＝物をのけて掃除する、トイレ掃除＝奇麗に使う 等々）
- ・ お手伝いの様々な内容により、その方法や要する時間等、年齢や場面に合った臨機応変さも含めてのお手伝いを考えてみましょう。
- ・ 洗濯後の片付けをしてみましょう。せめて自分のものを自分の場（引き出し）に入れてみる。

☆年末年始には、隣近所の方やご親戚の方としっかりご挨拶が交わせるようになりましょう。

☆年賀状を出し合ってみましょう。

- ・ 年賀を通して、その人の事を思い、また年齢（3～5歳）や個人（個々の園児）に応じ、年号・干支（子年）・字・数字・電話番号・自分の住所等に興味関心を持つ機会となりますように。（自分が住んでいる地名、祖父母の姓名は？、切手を貼る場所etc.）

☆お年玉について話し合みましょう。

- ・ お金の種類・価値・使い方等について、子ども達に知らせてみましょう。

☆冬休みにもお祈りを忘れずに

- ・ 年末には1年間のお守りに感謝をし、年始には1年間のお導きお守りをお願いしましょう。（家族の為、お友だちのため、社会情勢や自然事象について、様々な事を・・・）

<クラス便り：各担任より>

<花組>

陽当たりのよい花組の保育室。彩られた東山連峰を望みながら、秋の歌を歌ったり…季節を感じて過ごした『感謝祭』に向けての毎日では、沢山の「ありがとう」を心に留めることが出来ました。初めての劇ごっこでの飛び切りの可愛らしい姿・一生懸命な姿は、観ている人の心に明るく優しい陽を差し込んでくれました。花組では、一つ大きな行事を終える毎に子どもたちの成長の姿をしっかりと受け止め、その成長を次のステップへと繋げる良い機会（タイミング）と捉えて、子どもたちに【新しいこと】への取り組みを投げかけています。2学期は、運動会後に金曜礼拝での座り方を祭壇に向かって左右に分かれて両側に座る様にしました。それまでは、片側に全員座り、花組の担任がすぐ側にいてすぐに援助が出来るようにしていました。礼拝堂という特別なところでの礼拝です。心静かに礼拝をお捧げすること。お祈りも、献金をお捧げすることも聖話を聴くことも花組なりに、先生にあれこれしてもらわなくても自分でしっかり出来るということを感じて欲しいという思いでした。『感謝礼拝』『クリスマスページェント』と、また礼拝により座る場所は変わりますが、自分で出来ているという感覚があれば、子どもたちは対応していくことが出来ます。二階の保育室でお昼ご飯をいただくときに配置する机の向きや形態を時々変えるのも同様です。机に対してどこに椅子を置けばいいのか、自分が置いた場所を覚えて、更にお友達や先生の座る場所がどこになるのか、お友達とお隣同士で座りたければどこにお互い座ればよいのか、と子どもたちなりに良く考えています。『感謝祭』を終えては、2つの【新しいこと】を提案しました。クラス便りでも紹介しましたが、小花ちゃんの椅子の動物（ボックス）のマークをもう外してもよいのでは？と。『感謝祭』での小花ちゃん3人は本当に立派に頑張っていましたし、「先生は、大きなお兄さんやお姉さんと同じようにしても大丈夫だと思うの。」ということを伝えました。それに対して、小花ちゃんの3人は「うん！うん！」とやる気充分の様子。大きな花組の子どもたちの反応も「大丈夫だよ！」という前向きなものでした。小花ちゃんの椅子のマークがなくなることは小花ちゃんに椅子（物）の扱いをしっかりとした意識を持って欲しいという思いはもちろんですが、これには大きな花組の子どもたちに自分だけでなく小花ちゃんのことまで気にかけて欲しいという思いも含んでいました。そんな思いはまさに実り、時々小花ちゃんが椅子の座る場所をお隣と間違えていたり、椅子の片付けを忘れそうになっていると我先にとお助けマンが現れています。それに対して素直に応じる小花ちゃん、とても良い関係です。人からの手助けを素直に受け入れ「ありがとう」という気持ちになれること・人が困っていたら素直に助けてあげようと思う気持ちはとても大切なことだと考えています。

そしてもう一つの提案は、金曜日（一週間の感謝）の帰りの歌、お祈りの歌を赤組・緑組さんと同様に難しいものにしても大丈夫かな？と、花組にとって、「赤組・緑組さんみたいに」というのはとても魅力的な言葉です。もちろん「出来る！！」とのこと。「では、先生のしているようにお客様座り（正座）から、お尻を上げて背中を伸ばして強い脚で（ひざまずく）しっかりとお祈り出来るお友達はやってみてね。」と、すると…もちろん出来るよ！と言わんばかりにみんな踏ん張って必死にひざまずいてお祈りをしていました。「出来るお友達はやってみてね。」と言われ、出来る！やってみる！とやる気になるということ、そしてそれが以前の自分たちよりも凄いことをしている！という自信や満足感…何よりも赤組・緑組さんみたい…という喜びは格別です。

さて、『クリスマスページェント』です。どんな準備期間を過ごして子どもたちは成長し、可愛い羊・小天使になり、イエス様の御誕生をみなでお祝いする時、どんな気持ちを抱くのでしょうか。そして、その後にはどんな【新しいこと】が待っているのでしょうか。みんなみなで愛の光を輝かせて嬉しいクリスマスをお迎えしたいと思います。

この一年も保護者の皆様には沢山のご理解と多くのご協力を賜りながら過ごして参りました。毎日、大切なお子様をマリアへとお送りいただきましたこと心より御礼申し上げます。

いつも私たちを御守り御導きくださる神様に感謝し、皆様の上に神様の豊かな御恵みと御導きがありますように、心よりお祈り申し上げます。

<赤組>

「天の神さま、いのちをくださってありがとう」「お父さんとお母さんを下さってありがとう」感謝祭を通して、身近な人やモノへの感謝に気づき、お祈りをしたときの子ども達のお祈りです。毎週金曜日に1週間の中でお祈りしたいこと、ありがとうやごめんなさいのお祈りなどを尋ねられていても、赤組さんにはどんなことをお祈りしていいのか分からず、なかなか手が挙がりませんでした。しかし感謝祭を通して命のつながり、自分の周りの人の働き、秋のお恵みに、そして神様に守られていることに目を向けるきっかけができたことで、みんなが自分の言葉で自分なりにお祈りし、感謝をすることができました。またご家庭からのお捧げものを使って緑組さんが作ってくれた豚汁に始まり、今年はボルシチ、かぼちゃサラダ、そして頭芋などの入った炊き合わせと、3日間に渡って、おいしいごちそうを頂くことができました。その総料理長を務めてくださった園長先生。3日目、最後の一口と決めていた頭芋を口に入れて、「こんなにおいしいの作ってくれる園長先生に、ありがとうって言わなきゃ〜!」と言った子どもがいました。こうして素直に「ありがとう」が言える、そんな子ども達の心に嬉しくなりました。と同時に、お友達のためと思って、少し厳しいことでも教えてくれる姿もあります。

感謝祭の練習が進むと同時に、金曜礼拝ではクリスマスに向けての聖話も進んでいました。勘のいい赤組さんは、マリアさまという言葉が出てきた時から、「あ!花組さん時にしてたよね?」「あれ?ページェントじゃない?」と囁き、昼食時には聖歌隊のお歌を誰からともなく歌っていました。♪かっぽかっぽらくだ〜歌っていると次第に楽しくなり、歌詞を変えて歌い始めた男の子。それを聞いていた女の子が「そんな神様のお歌を替え歌したらダメなんやで」と注意しました。罰の悪い顔で「ごめんなさい」と呟いた男の子たちでした。「ありがとう」と「ごめんなさい」この2つが素直に言える子ども達には、きちんと素直で優しいお心が育っているのだと思いました。

またある子どもの「神様の歌は替え歌しちゃだめ」という言葉から、同じお歌でも神様のお歌は特別、クリスマスの歌は神様の歌だという認識が子ども達の中にしっかりとあることが分かりました。そんな赤組さんにクリスマスページェントで担ってもらう聖歌隊。イエス様がお生まれになったお話をお歌で伝え、メインキャストの緑組、子羊、子天使の花組さんを支えるお役です。優しくて素直な心、誰かのためにを想ってできる愛のある子ども達、そんな子ども達と共にこれからクリスマスの準備をしていきます。クリスマスの準備と言っても、ページェントに向けてお歌を練習するだけではありません。28日から始まったアドヴェント、クリスマスを迎えるための心の準備期間でもあります。どんなお心でクリスマスを迎えたらいいのか?感謝祭で自分の身の回りの方々の働きに目を向けられるようになりましたが、その視野をもっと広げて、世界の人々にも目を向けたいと思います。私たちは賑やかで温かい雰囲気のカリスマスを想像し、楽しみにしますが、世界にはそんなクリスマスを迎えられない方々もいらっしゃいます。病気で苦しんでいる人々、困っている人々、不安の中にいる人々のことも思い、その方々のために共にお祈りし、愛をもって人に接することができる子どもになってほしいと思います。

イエス様のお誕生をお祝いするクリスマス。決して恵まれた場所でお生まれになったわけではあ

りません。しかしイエス様がお生まれになった馬小屋が描かれている聖画には温かな光があります。そこには誕生の喜びとそしてみんなの愛が光として表されているのだと思います。クリスマスページェントでも、子ども達、そして聖歌隊コーラスの方々、そして見に来てくださるおうちの方々の愛がお礼拝堂いっぱいに広がり、きれいな歌声が響き渡ることを楽しみにしています。

＜緑組＞

10月以降好天続きで、子どもたちも連日園庭でよく遊びました。ゴム草履の持ち帰りを忘れて、今年は長く子どもたちの靴箱に並んでいたほどです。そんなお天気続きで近畿の水瓶「琵琶湖」の水位低下が進み、放流抑制が要望されるほどになっていたとは思いませんでした。ちょうど子どもたちにはSGDsの話で「水を大切にしよう」と知らせ、感謝祭を通してお恵みを下さる神様に「ありがとう」を考えていたときだったので、当たり前に見える「水」がどこからやってくるのか？と改めて話したことがありました。水がないと…草木や植物、収穫される食物も実らないこと、動物たちも飢え乾くこと、身近な生活の視点からは、掃除・洗濯・入浴・トイレ・料理・手洗い/うがい…etcができなくなっていくのだと話していると、子どもたちは一様に「え〜！」と驚きました。またその「水」の始まりが雨であり、その雨が山々の土を伝って川となり、やがて大きな湖（ダム）を経由し私たちの生活に活かされていること、それが「行ったことある〜！」と子どもたちがよく話してくれる「琵琶湖」なのだとつながったとき「え？そうなの？」とこれまた驚いていました。子どもたちに、生活の危機が身近にあることを話す中で、ちょっとしたことだけれど、私自身の意識も変わっていききました。水の出し方、ごみの仕分け…本当に些細なことですが、大人が意識すれば自ずと子どもたちも気が付くようになるのだなと感心します。ホールのごみ箱を紙ごみと他のごみに分別すると「これどっちに捨てるん？」と聞いてくれるようになりました。そしてモノの扱いに目を向けることは、人とのかかわりにおいても変化や成長をもたらしてくれます。感謝祭では、年長組として自分の役割に責任を持つという場面に何度も直面しました。またその役割だけを果たせば終わりではないことに気が付き、「次」とつなげるために全体の流れに応じて、自分で判断して動ける準備をしておかねばならないのだと、練習を通して保育を通して先生が懇々といい聞かせ、考える機会を与えられてきました。幼稚園という子どもたちが中心の場では、緑組がリーダーシップを発揮しなければならない場面が多くあります。でも家庭においては、リーダーシップではなく、待っていれば「誰かにやってもらえる」ことで受け身となり、時には思いを押し通す「わがまま」でことを成そうとしていることがあるのではないのでしょうか？子どもたちに質問するなかで「どうしてそうおもったの？」と尋ねることがしばしばあります。「なぜ」という問いに対して、多くの子どもたちが答えを模索し口ごもってしまいます。自分の思いを説明することに正解も不正解もありますが、説明することに戸惑っているのです。「会話」ということは、一方通行ではありません。コミュニケーションは一方通行ではないのです。「相手を慮る」これは、幼稚園児だから無理なのではなく経験の中で備わっていくものなのです。緑組にとって必要なことは「相手を知る、周りをみる、そして自分がどうあるべきか」を6歳なりに考えて行動する力です。そこで初めて「誰かのために自分ができること」が、何であるのか、理屈ではなく言動として見えてくるようになるのです。家族のために、友達のために、小さいお友達のために、困っている人のために、病気の人のために…自分ができるとして何なのだろう？

一見、華やかで煌びやかなクリスマスは、そうした社会にも目を向ける機会にもなります。「琵琶

琵琶湖の水」がなくなれば、自分たちの生活にも大きな影響が及びます。でも、世界に目を向ければ蛇口などない、水さえない場所があることに気が付きます。子どもたちが万国旗や世界地図に関心をもったとき「先生、アフガニスタンって今、大変なんだよね」と話してくれたことがあります。広い世界は決して平和ではないし、目を背けたいことがたくさんあります。ただ、身近にいる人の幸せを願い、健康を願い、感謝することは日々の中でできます。サンタクロースに素敵なプレゼントを子どもたちが願うとき、一緒に誰かの幸せをお祈りできれば…と思うのです。そして、緑組の子どもたちからみなさんに、すてきな「クリスマス」がお届けできるように、ページェントに向けて練習に励むとともに、人を想う「愛の心」を育んでいきたいと思います。

クリスマス…緑組の子どもたち一人ひとりが、そしてご家族のみなさんがあたたかく、幸せな時間を、大切な人とともに迎えられるように心からお祈りしております。

☆ Merry Christmas and Happy New Year ☆